

みなさんおはようございます。校長の天野です。皆さんの姿を見ながら話せないことはとても残念ですが、この異常な暑さですから仕方ありません。さて私が着任して3か月が経ちました。その間、皆さんの良いところをたくさん見てきました。その一端を紹介します。まずは何と言っても挨拶。ほとんどの生徒が廊下ですれ違う時にこんにちはと言ってくれます。また嬉しい外部からの連絡もありました。外部の方からの電話はほとんどが苦情です。ところが6月にかかってきた一本の電話は千里高校の生徒への感謝の電話でした。学校の近所にあやめ橋という急な螺旋階段があります。そこをおばあさんが重い荷物をもって上っていたそうです。そこで千里高校の生徒と行き違ったのですが、いったん下までおりにいたにもかかわらず、引き返して上までその重い荷物を運んでくれたことに対する感謝の電話でした。

みなさんが今後、どの道に進もうとも何よりも肝心なものは人間性です。優しさと言い換えてもいいでしょう。千里生はこの3年間で元から持ってる優しさに磨きをかけ、豊かな人間性をもった人間へ成長してください。それが必ず、皆さんの成功や幸せへつながっていきます。人間性を磨くためには長期の夏休みはとても有効な時間です。残念ながら3年生は受験勉強が主たる生活となりますが1.2年生にはまだ時間的余裕があります。夏休みにしかできないことにチャレンジしてみてください。手軽にできることはやはり読書です。小説は自分が体験できない世界を見せてくれます。特にやりたいことがまだ見つからない人には読書を薦めます。生きることの意味をつかんでいる作家は実にいろんなことを教えてくれます。みなさんの柔らかな心で読む作品は、今後の人生を決定づけることもあります。そんな出会いをこの一夏でもらいたいものです。夏目漱石は「私の個人主義」という書物の中で倫敦で長年の間苦悩した結果ようやく自分の探していた言葉と出会ったと言っています。その言葉で心の霧が晴れ、自分の進んで行くべき道を教えられたといます。その言葉は「自己本位」という言葉です。この言葉に至る苦しみの過程が重要なのですが、自分勝手とは違います。他人に動かされず、判断や行動の基準を自己に置くといった意味でしょう。この夏、あなたにとっての自己本位を見つけてください。

最後に私が高校時代に読んで感銘を受けた1冊の本を紹介します。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」です。厳然とした身分制度、思想の相違があるにもかかわらず、幕府の官僚から、倒幕派に至るまで、幅広い人たちをつなげ、日本といった狭い枠組みにとらわれず、はるか遠く世界を見ようとしていた坂本竜馬。彼を見習おうと感銘を受けたものでした。みなさんもこの夏、自分の竜馬を見つけてください。それではよい夏休みを。